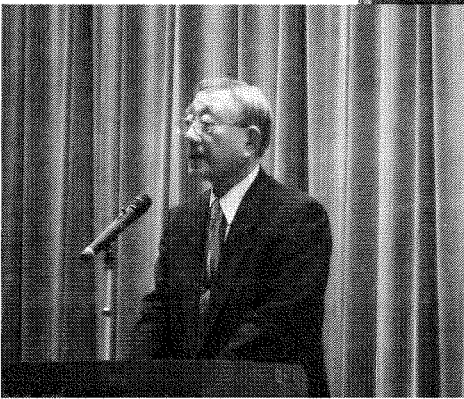


平成25年度宮城県社教連会報

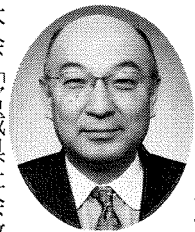
平成25年 9 月27日 社会教育委員研修会



〔会場風景〕



(一社)全国社会教育委員連合
常務理事 坂本登 先生



「五十周年に想う」

宮城県社会教育委員連絡協議会

会長 菅原敏元 (栗原市)

本会「宮城県社会教育委員連絡協議会」も昭和三十九年九月十五日の規約施行と同時に活動を開始しお陰様で本年無事五十年を迎えられることとなりました。これも全ては諸先輩方を始めとする関係皆様のご尽力の賜と心から感謝を申し上げる次第でございます。

戦後の教育委員会制度の中に、私たち社会教育委員制度を新たに組み込むことは「民意による良き社会の創造を、強く・深く・幅広く構築する為」であったと私は理解します。また、この半世紀というものの社会の進展や変化も著しく、社会教育にも大きな影響が様々な形で及んだことは述べるまでもありません。このような中で一番に私の脳裏をかすって行ったのがチャールズ・ダーウィンの「決して生き残ったのは、強い者でもなく、賢い者でもない。唯一、変化できる者である」というひとつの諺でした。

今後更なる社会教育の振興を向上と、より豊かな社会を構築する為には、今こそ本会及び私たち委員の半世紀にわたる軌跡の検証と、これから真に必要な課題を我々社会教育委員が住民目線で洞察し、今後の社会変化の動向を皆で議論し、特に「前例主義に判断を委ね

るような既成概念を払拭できる行政環境を提案し、その行政と共にその地域に必用な計画推進が実行出来るシステムを構築できるか否か」が、今後の社会教育推進向上に大変重要な鍵であり、今の私たちに託された最大のテーマ且つミッションと思慮するものです。

結びに、私は現在被災地県を除いた場所での講演依頼をされた際には必ず次の提案をしています。それは、「PTCAとコーディネーター(おせっかい)の薦め」です。読んで字のごとくPTA(保護者と先生の組織)にC(一定の地域に居住する共属感情をもつ人々の集団、つまり地域社会の意味でのCommunityのC)をプラスする活動です。具体例は、文部科学省が推進する「学校支援地域本部事業」への「コーディネーター(おせっかい)役」です。つまり、学校を中心とした家庭や地域社会の必要課題に対し、個々が持つ個人の要求課題(needs)という力を「誰かがコーディネートすること」で、社会全体の教育力を高め地域力を向上させること。「幸せなまちづくり」が出来るのだということ。



平成二十五年度 宮城県社会教育委員研修会

平成二十五年九月二十七日
(金)、平成二十五年宮城県
社会教育委員研修会を、県内
外から社会教育委員を中心に
社会教育関係者百六十五名を
迎えて開催しました。

本事業は、文部科学省委託

「学びを通じた被災地の地域
コミュニティ再生支援事業」
社会教育委員がコーディネー
トする被災地の学習・交流事
業「東日本大震災と社会教育
委員」活動実践交流セミナー
と合同開催しました。

東日本大震災被災地におけ
る地域コミュニティの再生を
願う、社会教育委員や社会教
育関係の委員および職員等が
参集して、被災地(者)の復
興支援の実践活動や今後の方
途などについて、体験と情報
を交換する機会とすることを
目的に開催したものです。

開会行事では、宮城県社会
教育委員連絡協議会 菅原敏

元会長と宮城県教育庁生涯学
習課 佐藤新一社会教育専門
監から挨拶をいただき、その
後、宮城県社会教育委員連絡
協議会表彰が行われました。
平成二十五年受賞された方々
は次のとおりです。

- | | | |
|------|-------|---|
| 大河原町 | 高橋美津子 | 様 |
| 村田町 | 櫻中 富子 | 様 |
| 柴田町 | 水上 國夫 | 様 |
| 岩沼市 | 池田 良 | 様 |
| 亘理町 | 只野 嘉邦 | 様 |
| 亘理町 | 一宮 嘉輝 | 様 |
| 亘理町 | 門澤 俊夫 | 様 |
| 亘理町 | 南條 繁子 | 様 |
| 大和町 | 加藤 陽子 | 様 |
| 大和町 | 大崎 勝治 | 様 |
| 加美町 | 工藤 清悦 | 様 |
| 涌谷町 | 石崎 賀子 | 様 |
- この表彰は、各地区で多年
(六年以上)にわたって社会
教育委員として活躍された方
宮城県社会教育委員連絡協議
会の役員を四年以上務めた方

また、特に宮城県社会教育委
員連絡協議会の発展に寄与さ
れた方で、各地区社会教育委
員連絡協議会または市町村教
育委員会から推薦を受けられ
た方に贈るものです。本県の
社会教育の推進に大いに貢献
された御功績に対し、深く感
謝申し上げます。

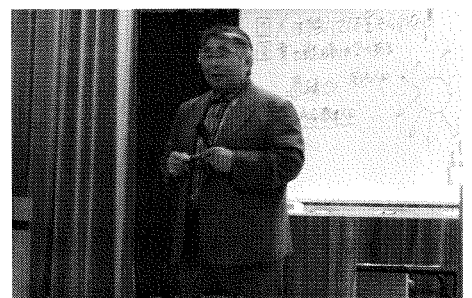
講演

茨城大学生涯学習教育研究
センターの長谷川先生をお招
きして、御講演いただきました。

演題
「震災復興に向けた
社会教育的連携のあり方」

講師
茨城大学
生涯学習教育研究センター
准教授 **長谷川 幸介氏**

社会教育の在り方は人の幸
せを作るといふこと、また、
幸せに生きていくために「つ
ながり(四つの縁)」を持つ



講演 長谷川 幸介氏

ことが大切であるということ
を大きなテーマとして、御講
演いただきました。

長谷川先生は「血縁」「地
縁」「友縁」「職縁」という4
つの縁を挙げられ、縁は「つ
ながり」によって形成されて
いるものであり、つながりの
広がりや個々の縁を大きくし、

さらには個々の四つの縁がつ
ながっていくことになると、
たいへん分かりやすく御教示
いただきました。また、一方
で、現代社会はそれぞれの縁
が小さく希薄な「無縁社会」
になっている現状を示され、
縁を増やし広げることが社会
教育であり、無縁社会に立ち
向かうことこそが社会教育に
求められていることであると

いうことを御教唆いただきま
した。

学校支援地域本部事業のあ
り方、また、学校、家庭、地
域の連携協力のあり方として、
「学校は、一人でも生きてい
ける学力を教える」「家庭は、
唯一のかけがえのない存在と
して認めてあげる(自己肯
定力を高める)」「地域は、人
とつながる社会力を身につけ
る」と示され、それぞれだけ
では大人になれないのだから、
この三者をどのようににつない
で「三角形」を作るのか、そ
の設計やオリジナリティの創
出が社会教育の役割であると
いうことも御教唆いただきま
した。

御講演をとおして長谷川先
生の明るい人柄にも触れさせ
ていただき、時折ユーモアも
交えながら、「いい人間にな
るためには、今・隣の人を・
支える」等の具体的に分か
りやすい言葉やフレーズで御
指導をいただきました。事後
の参加者アンケートには、長
谷川先生の御講演を聴いてと
ても有意義であったという、
たくさんのお意見がありました。

調査報告

「東日本大震災と社会教育委員に関する調査」

報告者

常磐大学

コミュニティ振興学部
助教 伊藤 真木子 氏

(一社) 全国社会教育委員連合が今年度五(五)六月に実施した、被災地三県(岩手・宮城・福島)の社会教育委員に対する復興・復旧への意識と活動に関するアンケートについて、伊藤先生から中間結果報告がありました。



報告者 伊藤 真木子 氏

平成二十三年四月に学校支援ボランティア「桜土」を発足し、震災直後の一年間に自家用車で二万三千kmを移動してボランティア活動した経験談を中心に御講演いただきました。

その活動をとおして感じた学校の閉鎖的な側面、また、被災児童と大人・教師の現実的実態等、社会教育推進・振興の実践経験をもつ元校長な

報告からは、社会教育委員としての被災地(者)支援と個人としての震災・防災にかかわる意識には同様の傾向があることが数値として示されました。また、自由記述についても概要が紹介されました。

話題提供

テーマ

「復興と社会教育委員」

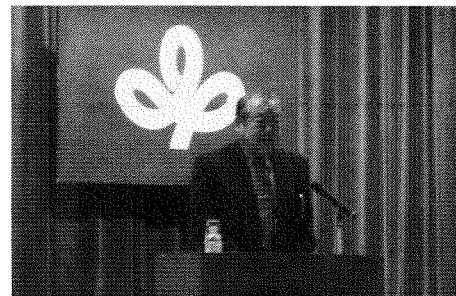
話題提供者

栗原市社会教育委員

桜土(さくらもの)のふ代表

鎌田 清 氏

らではの話題もあり、会場からは共感の拍手が起きる場面もありました。



話題提供者 鎌田 清 氏

シンポジウム

テーマ

「社会教育委員が取り組む被災地の地域づくり活動」

シンポジスト

栗原市社会教育委員

鎌田 清 氏

石巻市社会教育委員

永沼 紀男 氏

女川町社会教育委員

千葉 幸喜 氏

コーディネーター

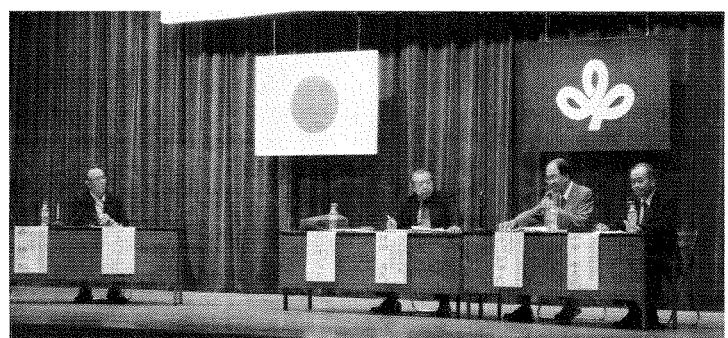
宮城県社会教育委員

連絡協議会副会長

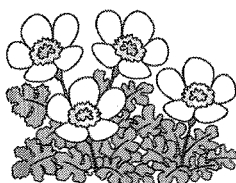
宮城県社会教育委員

森 雅一郎 氏

震災から二年半経過した町の復興、被災住民の気持ちについて、永沼氏、千葉氏に話していただきました。また、鎌田氏の支援活動の話も加わり、地域コミュニティの再生の状況、新たな人づくりやネットワークづくりに必要なものなど、多岐にわたって意見交換することができました。つながり、絆、ふれあいなどは、今もなお人々の気持ちを前向きにする原動力であり、それが地域の結束力を高めているものであるということを確認できました。被災地で人とかわり・つながりをもって活動していくことそのものが、社会教育として人を支え、育み、地域づくりを振興するものであるということを感じることができました。



シンポジウム



東北社会教育委員 連絡協議会

表彰おめでとーいございます

「つどいふれあい
まなびあい」

多賀城市社会教育委員

原 義 夫



表彰を戴いた。「ご褒美」と云うより現在の活動に対する「激励」と有り難く戴くと共に支援と助言を続けてくれる先輩・同輩諸兄姉に改めて感謝の気持ちを深くしている。

私の社会教育との出会いは平成三年私の住む町に町内会が作られ、その役員となり、市の社会教育振興員に推薦されたことに始まる。昭和五十八年に作られた制度で、自分の住む町の集会所などを拠点に教室・サークル等を自ら作ったり作りた方の方の相談や直接の手伝いをするお役目である。

市社会教育の一翼を担うものである。このお役目、私の町では前例・相談相手もないことから、蛮勇と偏見で。

「社教とは人が集まってならば、楽しかった、役立ったと言われてなんぼの世界」、「自分が楽しくやれること」と決め「つどい・ふれあい・学びあい」をモットーとして教室をスタートさせた。二十三年間に開設した主な教室は、暮らしに役立つ「筆ペン表書き教室」、高齢者対象の「シルバー・サロン」、入園前の幼児対象の「赤ちゃん広場」、ブロック体を習わなかった方々対象の「NHK基礎英語」等々。

3・11で町の三分の二が大規模半壊の被害を受けた。私も「一発断捨離」、柱時計とカレンダーを残して全てを失った。七月には妻が旅立ち、失

う物はなにも無い身となった。その年の秋にはあちこちに避難している人たちの再開の声に押され「ふれあい教室」の名で「軽体操、四則計算、ことば遊び、輪読」などを再開、現在も月二回行っている。

一方、市文化センターを使用して学習している五十余の団体の会長として十年ほど前から、年度末三日間行う学習成果の発表「文化センター祭」の企画・運営を学習者の手で行っている。

平成十一年社会教育委員就任以来深く記憶するのは、社会教育施設の指定管理者問題、被災社会教育施設の復旧・復興。そして今、市復興のシンボルとも言える図書館新築移転とその運営問題に取り組んでいる。これらの活動を通して、今何よりも大切なのは各委員が持つ豊かな経験や識見と市民の声や地域の実情の咀嚼を通して積極的且つ継続的に提言をする姿勢を持ち続けることと痛感している。

心豊かな時代 づくりのために

大和町社会教育委

荒 木 淳 子



この度、東北地区社会教育委員連絡協議会より表彰

をいただきましたことは、多くの方々からの温かいご支援とご指導のお蔭と心より感謝申し上げます。

また、社会教育委員として勉強させていただきながら、たくさんのお出合いをいただいたことに重ねて感謝いたします。

さて、一言に社会教育と言ってもとても幅広く奥深いものです。少子化、核家族化が進み、心の豊かさを求められる一方でコンピュータ時代になり、人との会話やコミュニケーションの形が変化し、日々の生活から温かい心の触れ合いが遠ざかってきていると思うのは私だけでしょうか。そんな時代だからこそ、人との関わり合いを大切にしない

ければならないと思っております。一人でも多くの人が地域の行事や活動に参加し、人とつながりあうことによって一人の人間としての幅が広がり、楽しみながら社会との関わり合いが増えて行くことが本来の心豊かな社会教育ではないかと思えます。

心豊かな時代づくりのためにも、一人の社会教育委員として微力ではありますが、行政とのパイプ役となり、明日を担う子ども達の健やかな成長を願いながら、潤いのある地域社会づくりを努めて参りたいと思えます。

地域の中の 社会教育委員

色麻町社会教育委員

落 合 洋 子



このたび、平成二十五年
度東北地区社会教育委員連

絡協議会表彰の栄を賜り身に余る光栄であり、厚く御礼を申し上げます。これまでの多

くの方々のご指導とご支援に
対しまして、心から感謝を申
し上げます。盛岡での表彰式
典では、鶴鳥神楽と盛岡さん
さ踊りを拝見しながら、確実
に大震災からの復興を感じ、
文化の伝承、私達の大切な営
みが受け継がれていく「時」
を感じました。

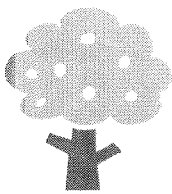
振り返りますと、町社会教
育委員として十六年あまりの
時が過ぎました。以前に研修
会で大橋先生の講演を拝聴し
て、社会教育委員の原点、先
輩委員の方々が積み上げてき
た揺るぎない思いが伝わって、
はじめて社会教育委員の役割
をきちんと学んだ気がして、
心が本当に熱くなったことが
昨日のこのように思い出さ
れます。

私は、現在文化協会の会長
そして、着付け愛好会を主宰
して文化活動に取り組んでい
ます。町民の方々がそれぞれ
の趣味や特技を生かして、楽
しいひとときを過ごしている
時は、どなたも明るく元気な
表情をしております。これら
の活動は、生涯を通して彩り
と潤いのある生活を送ってい

くための一つの活動としても
必要だと感じています。社会
教育活動は、心の中に夢と希
望を運ぶ一陣のそよ風となっ
て真の生きがいづくりに結び
つくものです。

これまでの経験を生かしな
がら、地域の中の社会教育委
員として、人と人を繋ぎ、町
民の方々が明るく生きがいの
ある生活が送れるよう活動に
尽くしていきたいと考えてい
ます。また、多くの方々が何
らかの形で、特にこれからを
担う若い方々が気軽に活動で
きるような体制と環境整備に
取り組んでいきたいと思っ
ています。

最後になりますが、各地域
での委員の皆様のご活躍とご
健勝をお祈り申し上げます。
私も委員として微力ながら、
町社会教育の発展に頑張っ
ていきたいと考えています。



各地区・市社会教育委員

からの寄稿

「家庭教育の再生を 意識した社会教育を」

丸森町社会教育委員

八島比呂



知識もない
まま会議に出
て早八年。そ
の間生涯学習

が著しい我が町のこと、お年
寄りが生きがいを見出せるよ
うな工夫を凝らした事業も多
い。

かつてお年寄りは、家庭で
も社会でも敬われる存在であっ
た。子どもは両親を敬愛し、
両親はその親である老年者を
敬い、その背中を見て子ども
は祖父母を尊敬し慕っていた。

そして「授かりもの」として
子どもは家族から慈愛を注が
れつつ人としての礼節をしっ
かりと身につけさせられた。
そんな家庭のあり方をはじめ、
人が生きる上での良質な「型」
が日本にはあった。時代を通

町では生涯学習の担当者や
それぞれの社会教育団体が、
すべての世代の人が充実した
幸せな生活を送る事を目指し、
様々な事業に真摯に取り組ん
でおられ頭が下がる。高齢化

れる。一方、子どものしつけ
方、マナーの教え方が分から
ない親、愛情の注ぎ方を知ら
ない親、果ては虐待など、決
して都会に限った事ではない。

以前文科省が、子どもの道
徳性がどう育つのか研究した
ところ「共感性とか罪悪感が
育つ臨界期は一歳の終わりだ」
との結果が出たと聞いた。道
徳教育は、学校に入ってから
では到底間に合わないという
事だ。教育の根本である家庭
教育が崩壊していたら、学校
教育が成り立たないのは当然
と言える。

こうした教育の危機の中、
社会教育、生涯学習の分野で、
地域民がその活動において家
庭教育の建て直しを意識しな
がら取り組む事で、なんとか
家庭の崩壊を食い止められな
いだろうか。前述の「型」を
しっかりと精神に据えたお年
寄りには、時代に迎合するよ
りむしろ「建て直し」の指導
者であって頂くように、我々
はお膳立てをして行くべきと

考える。

親から聞いた子守唄を子どもに優しく唄ってやる声が聞こえて来る町になったなら、どの世代の人もきっと幸せを実感できるだろう。

与えられたこの機会

七ヶ浜町社会教育委員

瀬戸 秀 壽



ある日「社会教育委員を
お願いしたい」と町担当課よ

り連絡があり「社教委？」それは聞き慣れない名称でした。率直に「それは何をするの？」そんな思いでした。

はじめて委員会に出席した時にはそのメンバーの顔ぶれには大変驚かされました。どの方も町内外で活躍している著名な方々ばかりでした。若輩者の私に加わる事に大変躊躇した事を覚えています。そんな私が県連の役職をも与え

られてしまったのです。ただ常々私は何事もそのポジションに着いてみないと見えてこないものがあるはずだといふ思いがあります。この社会教育委員にしても然りです。

現時点ではまだ「社会教育委員とは・・・生涯学習とは・・・」という問い掛けに答えられるほどの物は持ち合わせていませんが今の私たちが日常において失い欠けている大事なものの、それら一つひとつを呼び

戻し人としてやるべき事を当たり前にやるよう皆で手を携え進んで行く事ではないでしょうか。そうする事で必ずや曙光が差し続けてくれるに違いありません。そんな環境づくりをする一役を担っているような感触がしています。

わがまち七ヶ浜も東日本大震災によって大きな痛手を負いましたが現在着実に復興再生に向け歩んでいます。その背景には地域住民の力強いパワーが後押ししています。この機会に自分の住むまちを

「理想郷」と自負し得るような七ヶ浜になってほしいと思います。

まだまだ社会経験が乏しい私ですが社会教育委員として与えられたこの機会を生涯学習を担うひとりとして、またわがまち「理想郷」実現のためこれからも更に日々邁進して行きたいと思っています。

「放課後子ども教室」とかかわって

涌谷町社会教育委員

菅原 達



わが町の社会教育重点の努力目標のひとつに「学校・

家庭・地域への教育支援事業と放課後子ども教室推進事業の充実を図る」というのがあります。私は二年前から、「放課後子ども教室」の運営スタッフとして活動しています。地域住民として、また社

会教育委員の立場から、子どもたちを観察できる、そして少しでも子どもたちの学びを支えることに協力できればというおもいからです。

教室は、各小学校区にあり、私は活動場所が自宅に近い「涌谷一小子どもっこクラブ」を手伝っています。役割は安全管理員です。コーディネーターや学習アドバイザーなどスタッフは十人ですが、仕事の関係もあり全員そろうことは殆どありません。

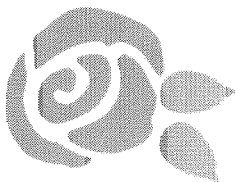
活動内容やその他については省略しますが、なかなか仲間に入れなかった子どもが、少しずつ活動の輪に加わるようになったり、街で会うと挨拶してくれるたり、うれしいこともたくさんあります。

さて、いつも問題になることと、それは生涯学習関連のサークルや団体の構成員の高齢化、指導員不足、若い世代が育っていない等々です。このことは「放課後子ども教室」でも同じことが言えます。生涯学

習分野だけでなく、いろいろな事業の担い手が特定の人に集中する傾向がみられます。長く続けるためには多くの人々の協力が不可欠です。団塊の世代を取り込んだり、子ども相手のときは中学生や高校生など若い人たちの力をぜひ借りたいです。

人材を探す、活用する、育てる、そのための第一歩は、展開している事業を地域の住民に知ってもらうことです。社会教育委員も、広報活動に一役買って積極的に行動しなければならぬと思います。

私は高齢者ではありませんが、町の子どもたちのために、老骨に鞭打ってもらうひと頑張りするつもりです。



「地域を越えた神楽 講演で地域振興」

栗原市社会教育委員

高橋 長 人



鶯沢神楽保
存会加入、活
動今年で五十
年となる。長

年培われてきた郷土芸能が高
齢化や後継者不足などにより
全国的にすたれてきている昨
今、栗原市の神楽団体におい
ても同様の状況である。

そんな折、人々の浄土を世
界に発信した平泉と連携し、
地域の活性を願い、平泉文化
に関わりのある南部神楽を広
く多くの人々に鑑賞していた
だけ、その素晴らしさを広宣
すると共に「南部神楽」の保
存と後継者育成を図り、地方
文化の進展に寄与することを
目的に、平成二十四年三月一
関市、奥州市、登米市、栗原
市の神楽団体六団体※が相集
い、南部神楽活動支援協議会

を設立し、平泉達谷窟・西光
寺の御好意で四月二十二日初
演「平泉文化と南部神楽講演」
と銘打って活動している。六、
七月・九、十月は西光寺、八

月・十一月から翌年五月まで
は、栗原市温泉施設「金成延
年閣」に於いて公演、平成二
十四年は毎週日曜日各二団体
で三十回、平成二十五年は加
入団体が五団体となったため
負担軽減のため月二回公演と
し、舞い初め・舞い納め・十
月二十七日の南三陸町復興支
援慰問公演を含め二十回の公
演を行った。

こうした定期的な公演によ
り、加入神楽団体の技術の研
鑽と交流が深まると共に、観
光振興の一助となっているも
のと神楽団体と鑑賞してくだ
さる観客の皆様へ感謝の念いっ
ぱいである。

また、私たち鶯沢神楽保存
会はハイルザーム栗駒や仙台
藩花山村寒湯番所跡役宅内で
の公演にも指名され、光栄の
極みである。今後も神楽講習

会の継続により、子どもたち
の健全育成と後継者育成、地
域振興にさらに精進する覚悟
である。

※一関市達古袋神楽、奥州市狼
ヶ志田神楽・大森神楽、登米
市石越赤谷神楽、栗原市栗原
神楽・鶯沢神楽

活動を支える コミュニティの役割

登米市社会教育委員

鈴木 敬 一



平成二十三年
四月に登米市
社会教育委員
に委嘱されて、
二期目です。

平成二十二年三月に退職し
て無事一年が経過しようとし
ていました。ところが、平成

二十三年三月十一日にあの未
曽有の「東日本大震災」が発
生しました。そして東京電力
の原子力発電所の放射能漏れ

の事故により、日本中が大き
な不安の中で生活をしていま
した。

本市においても被災があっ
たものの、避難所を必要とす
る市民は多くはありませんで
した。今もって厳しい、避難
生活をされている方々のこと
を思うと心が痛みます。

現在、社会教育委員は十名
です。当時は、再任委員六名
と新任委員は自分を含めて四
名でした。

これまで通算六回の社会教
育委員会が開催されました。
主な協議内容については次の
通りです。①被災施設の状態

と復旧 ②平成二十三年度か
ら平成二十七年までの五カ
年計画の「後期の生涯学習推
進計画」③指定管理者制度の
導入 ④総合型地域スポーツ
クラブの設立についてです。

社会教育施設については、
地域の自立を図るため公民館
の自主管理、自主運営を進め
る為に導入されました。その
ために登米市まちづくり基本

条例に基づく、コミュニティ
を組織して、市民参加によっ
て運営されています。体育施
設の運営は、体育協会が担っ
ています。

登米市は、平成十七年四月
に登米地域九町が合併し誕生
しました。当時は、九万二千
人、県下三番目の人口。しか
し、平成二十五年十一月末は
八万四千五〇五人です。

人口の減少は地域の諸運営、
活動にも影響しています。私
の地域においても、役員の固
定化、組織の弱体化がみられ
ます。

さらに地区コミュニティの
組織力の低下を招くことがな
い様に懸念しています。その
為には、市民に地区コミュニ
ティの重要性を認識してもら
う必要があります。

私としては、まず地域の行
事への積極的な参加を心がけ
ています。その結果、地域内
でコミュニティが深まるきつ
かけになることを願っていま
す。

石巻市の社会教育の進捗状況

石巻市社会教育委員

永沼紀男

平成二十五



年度の第三回
石巻市社会教育委員会議が

二月に開かれました。(年四回)

次年度の活動計画作成が主な議題でした。

市内各地から選任されている委員が現状の活動と今後について熱心に討議をしました。まだまだ震災が社会教育活動にも影響していて、地域の被害の状況がそのまま活動推進にも表れており、意見をまとめた活動計画を作成する事務局も大変な事だと思えます。定住者、仮設校舎、コミュニティ施設の不足等難問が山積みしています。悔しい事です。

それでも文化芸能の伝承、協働教育への協力等で地域の方々とボランティアの応援を受けながら必死に頑張っており、成果もあげ、地域活性化に大いに役立っています。頭の下がる思いです。

必然的に話題が震災に関する反省となりました。

近い将来予想されていた宮城県沖地震が教訓として生かされたか、復興についての市民としての責任意識が低くないか、女性のリーダーが多く活動をはじめた、高齢者率が高いが活用場が少ない等々どれも貴重な提言であり、今後に生かしていく事を確認し合いました。

昨年末仙台で開かれたフォーラムについても話し合われました。震災下の各地域での社会教育委員の活動がテーマでありましたが社会教育委員への期待が高まる中、当事者として身の引き締まる思いと今更ながら震災の大きさに不安

感を覚えるのも正直な処です。

「社会教育委員一年生」

気仙沼市社会教育委員

内海輝幸



「人間は独りでは生きられないので、生きのびる為

の戦略が必要である。その戦略とは、つながり、緑、ネットワークである。血縁、地縁、友縁、職縁共につながりが希薄になっていて、この無縁社会に立ち向かうことが社会教育の役割である。」と昨年の研修会で長谷川准教授が講話された。確かに少子化や各家族化が血縁を弱め、孤独死は地縁の低下を物語っている。私は、教職を定年退職して、今後は自分を育ててくれた故郷に恩返しをしなくてはと心に誓いました。早速自治会、地区社会福祉協議会、公民館

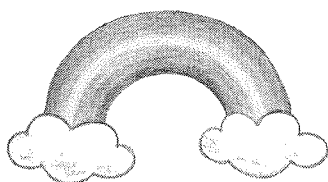
児童保育等と関わり、現在に至っています。

平成十七年公民館長就任、十九年には指定管理者制度導入に伴い、公設民営公民館としてスタートしました。これは、地域の先輩達が長年研修を重ね、周到な準備を進めてきた結果実現できたものです。五年間の公民館勤務を経て社会教育委員に推薦されました。

私達の公民館は、地区内各団体で構成した経営委員会を組織し運営しています。もともと、私達の公民館は、地域のセンター的な存在でしたが、3・11大震災では、約半年避難所の運営を経て、ふるさと再建を目指すまちづくりセンターの度合を強めています。

地区内では、六自治会が大被害を被り、被災地域の復旧復興とコミュニティの再構築がまちづくりの大きな課題であり、私は活動の軸足をここに置きたいと思っています。また、市全体としては、先

ず、被災の三公民館の再建は、復旧に止めず新たな機能を備えた施設の早期完成を目指すこと。一方で学校再編後の施設活用は、地域の社会教育の核施設として利用、他の社会教育施設への転用等、私達の取り組むべき課題と思います。



平成 25 年度 各地区社会教育委員連絡協議会 — 事業報告 —

大河原地区

本年度の当地区研修会は、事務局担当である白石市の歴史や文化にふれることにより、今後の社会教育・生涯学習の推進に資するという観点で研修会を計画し、実施しました。

■研修会（総会終了後に実施）
①期日…平成25年

5月30日（木）

②内容…「奥州白石断について」

歌舞伎の演目としても有名で、姉妹が父の仇討ちを果たす孝心を描いている物語について、姉妹にゆかりのある講師から講演をいただきます。

③講師…専念寺

副住職 徳力 祐弘氏

④場所…白石市中央公民館

⑤その他

■移動研修会

①期日…平成25年

11月7日（木）

②内容…「伊達政宗と片倉

小十郎」他

政宗と小十郎の関係や小十郎のナンバー2としての実像などについて講演をいただきます。その後、白石城本丸広場において片倉軍と真田軍の合戦を約百人のエキストラで再現した「大坂夏の陣」道明寺の戦い」のVTR鑑賞、午後には小原の検断屋敷と白石うーめん工場を見学しました。

③講師…白石市教育委員会

生涯学習課

主査 櫻井 和人氏

④場所…白石市中央公民館
⑤その他

仙台地区

○平成二十五年度総会

期日…平成25年6月6日（木）

場所…岩沼市民会館

内容…感謝状贈呈及び左記について審議いただきます。

- ・平成二十四年度事業報告及び収支決算報告と監査報告
- ・平成二十五年事業計画及び収支予算

○平成二十五年度研修会

期日…平成25年6月6日（木）

場所…岩沼市民会館

内容…基調講演を実施
講師…大貫地区公民館

（大崎市田尻）

館長 太田 孝氏

演題…『まちづくりは公民

館が核になる』

○第一回理事会

期日…平成25年8月8日（木）

場所…宮城県仙台合同庁舎

内容…平成二十五年度視察研修会について協議し、十

月二十三日に実施予定の視察研修会について、事務局案のとおり、岩手県奥州市水沢青少年育成市民会議等を訪問する方向で進める。

○理事視察研修会

期日…平成25年10月23日（水）

場所…岩手県奥州市役所

内容…「一人でも多くの子どもたちを幸せに」と題して水沢における子ども居場所の取組みについて、担当職員から実践事例や、現在活動している活動内容について説明を受けました。

○監査会及び第二回理事会

期日…平成26年2月21日（金）

場所…宮城県仙台合同庁舎

内容…監査会

- ・平成二十五年度会計監査理事会
- ・平成二十五年度事業報告と決算報告
- ・平成二十六年度事業計画と予算案の審議



「伊達政宗と片倉小十郎」の講演風景

大崎地区

○大崎地区社会教育委員連絡協議会研修会

期日：平成25年11月7日(木)

午後2時

場所：美里町中央コミュニティセンター

内容：大崎地区社会教育委員連絡協議会では、生涯学習の推進と社会教育委員としての資質向上を図るため、毎年構成市町の輪番による研修会を企画しています。

今回も昨年に引き続き、「地域をつなぐ防災教育」



をテーマに、講演会を実施しました。

講師には東日本大震災の際、一時は孤立状態となった石巻市牡鹿半島東浜地区で七カ月にわたり、地域の災害対策本部長を務め、地域の災害復旧に奮闘した豊島富美志氏を講師に「震災と復興」と題しての講演を頂きました。

栗原市

◆第一回社会教育委員会議

(1)日時：平成25年

5月16日(水)

午前十時から

(2)内容：平成二十五年度栗原市社会教育事業について

- ・社会教育課事業
- ・各教育センター事業
- ・各文化センター及び図書館事業

◆栗原地区協働教育研修会 (第一回研修会)

(1)日時：平成25年

9月26日(金)

(2)会場：栗原合同庁舎

(3)内容：

【実践発表】栗原西中学校

【講演】

「地域を活かし、地域に生きる力を育む協働教育(学社融合)」

講師 学社融合研究所

代表 越田 幸洋氏

◆学校支援ボランティア実践発表会(第二回研修会)

(1)日時：平成26年

1月31日(金)

(2)会場：栗原文化会館

(3)内容：

【実践発表】

築館小学校・花山小学校

【講演】

「学校支援ボランティアがもたらすもの」

講師 宮城教育大学

特任教授 野澤 令昭氏

◆第二回社会教育委員会及び研修会(予定)

(1)期日：平成25年3月下旬

(2)内容：

【報告】平成二十五年度栗原市社会教育事業実施業況について

【研修会】社会教育委員としての活動についての情報交換

しました。また、市教育委員会からの諮問事項について協議を行い、継続して審議していくこととしました。

①第一回社会教育委員会会議

期日：平成25年

6月13日(木)

場所：中田生涯学習センター

内容

・平成二十五年度市教育基本方針

・本年度の重点施策への取り組みを協議しました。

・平成二十五年度社会教育・社会体育事業について

・新年度の事業計画について説明を受けました。

・災害復旧状況について

・大規模改修が必要な二施設の復旧計画について説明を受けました。

②第二回社会教育委員会会議

期日：平成25年

12月19日(木)

場所：中田生涯学習センター

内容

・平成二十四年度生涯学習施設利用状況及び事業実施状況について

登米市

昨年度末で全委員の任期が満了し、再任委員九名、新任委員一名の十名構成となりました。

会議では市教育委員会の重点施策を確認し、意見を交換

施設利用状況や取り組んだ事業について説明を受けました。

・諮問について

市教育委員会より、「登米市における生涯学習施設の在り方について」の諮問を受けました。継続して審議し、平成二十六年度に答申することとしました。

「登米市における生涯学習施設の在り方について」の諮問を受けました。継続して審議し、平成二十六年度に答申することとしました。

石巻地区

平成二十五年度石巻地区では三回の地区研修会を実施しました。

①平成25年6月13日(木)

総会・石巻市

河北総合センター

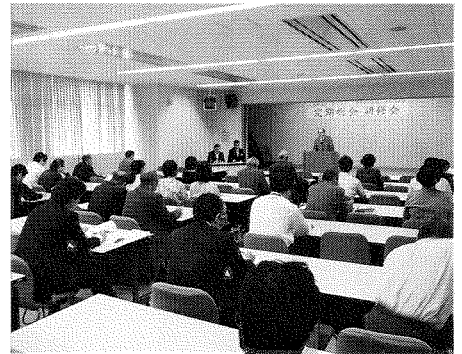
研修会・講演「ISプロジェクト・地域と学校とのつながりについて」

講師・石巻信用金庫

理事長 高橋 賢志氏

地元企業「産」・石巻

専修大「学」・石巻信用



金庫「金」が連携し、それぞれのノウハウ等を活かすことによって、地域経済の活性化は元より地域社会の発展や社会教育にも関係するを知ることができました。

②平成25年9月19日(木)

第二回研修会

(平成二十五年度東部教育事務所管内協働教育研修会)

会場・石巻市桃生公民館

講話・「協働教育がもたらす学校・家庭・地域の活性化」

講師・宮城教育大学

教授 梨本雄太郎氏

教職大学院

教授 梨本雄太郎氏

実践発表

登米市学校・地域教育向上対策事業

(登米市教育委員)

生涯学習課)

東松島市における市民センター活動

(東松島市教育委員会)

生涯学習課)

協働教育の法的根拠や

宮城県教育委員会の取り組みなどに照らし合わせた講話をいただき、これからの協働教育を進める上で大変参考になりました。

た。

③平成26年1月29日(水)

第三回研修会

(平成二十五年度石巻市協働教育フォーラム)

会場・石巻市桃生公民館

講演会・演台「学校と地域が子どもを育てる仕組みづくり」

講師・特定非営利活動法人

まなびのたねネットワーク

代表 伊勢みゆき氏

協働教育を推進するに

協働教育を推進するに

あたり、必要な要素についていろいろな立場を超えて共有することができました。

気仙沼・本吉地区

平成25年9月25日(水)

南三陸地区協働教育研修会

(気仙沼市)

・演題

「子どもたちに伝えたい知識と知恵 そして未来」

・講師

フリーアナウンサー・

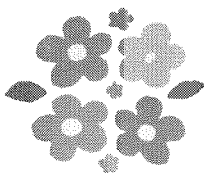
タレント 渡邊 勝彦氏

当地方では、社会教育委



員研修を気仙沼・本吉地方社会教育関係者合同研修会として開催しています。

平成二十五年度は、社会教育委員はもとより、社会教育担当教員や保護者、公民館職員なども含めて行う南三陸地区協働教育研修会に本研修会を兼ねて行いました。



平成二十五年 宮城県社会教育委員連絡協議会事業一覧

○第一回理事会

平成 25 年 6 月 20 日

(県自治会館)

- * 平成二十四年度事業報告及び収支決算報告について
- * 監査報告
- * 平成二十五年度事業計画案及び予算案について
- * 表彰関係について(県・東北・全国)

- * 平成二十四年度事業報告及び収支決算報告について
- * 監査報告
- * 平成二十五年度事業計画案及び予算案について
- * 表彰関係について(県・東北・全国)

- * 平成二十五年度役員・地区事務局について
- * 平成二十五年度東北地区社会教育研究大会兼公民館大会岩手大会について

- * 宮城県社会教育委員連絡協議会発足五十周年記念事業について
- * 平成二十五年度各地区事務局等の確認
- * 情報交換会

- * 平成二十五年度宮城県社会教育委員研修会
- 兼 文部科学省委託「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

- 平成 25 年 6 月 20 日
- (県自治会館)

- 平成 25 年 9 月 27 日
- (県行政庁舎)

平成 25 年 9 月 27 日

(県行政庁舎)

- * 宮城県社会教育委員功労者表彰
- * 講演・長谷川幸介氏
- (国立大学法人茨城大学生涯学習教育研究センター准教授)

- * 調査報告・伊藤真木子氏(常磐大学コミュニティ振興学部助教)
- 「東日本大震災と社会教育委員に関する調査」
- * 話題提供・鎌田 清氏(栗原市社会教育委員・桜土代表)

- * 震災復興に向けた社会的教育的連携の在り方
- * 調査報告・伊藤真木子氏(常磐大学コミュニティ振興学部助教)

- * 調査報告・伊藤真木子氏(常磐大学コミュニティ振興学部助教)
- 「東日本大震災と社会教育委員に関する調査」
- * 話題提供・鎌田 清氏(栗原市社会教育委員・桜土代表)

- * 調査報告・伊藤真木子氏(常磐大学コミュニティ振興学部助教)
- 「東日本大震災と社会教育委員に関する調査」
- * 話題提供・鎌田 清氏(栗原市社会教育委員・桜土代表)

- * 調査報告・伊藤真木子氏(常磐大学コミュニティ振興学部助教)
- 「東日本大震災と社会教育委員に関する調査」
- * 話題提供・鎌田 清氏(栗原市社会教育委員・桜土代表)

- * 調査報告・伊藤真木子氏(常磐大学コミュニティ振興学部助教)
- 「東日本大震災と社会教育委員に関する調査」
- * 話題提供・鎌田 清氏(栗原市社会教育委員・桜土代表)

- * 調査報告・伊藤真木子氏(常磐大学コミュニティ振興学部助教)
- 「東日本大震災と社会教育委員に関する調査」
- * 話題提供・鎌田 清氏(栗原市社会教育委員・桜土代表)

- * 調査報告・伊藤真木子氏(常磐大学コミュニティ振興学部助教)
- 「東日本大震災と社会教育委員に関する調査」
- * 話題提供・鎌田 清氏(栗原市社会教育委員・桜土代表)

(女川町社会教育委員)

コーディネーター

- ・森 雅一郎氏

(宮城県社会教育委員連絡協議会副会長・TBC

アナウンス学院長)

10月10日(岩手県盛岡市)

○東北地区社会教育研究大会

東北地区社会教育委員連絡協議会理事会

平成 25 年 10 月 9 日

10月10日(岩手県盛岡市)

○全国社会教育研究大会三重大会

平成 25 年 10 月 23 日

10月25日(三重県)

平成 26 年 3 月 12 日

(県行政庁舎)

○第二回理事会(予定)

平成 26 年 3 月 12 日

(県行政庁舎)

- * 平成二十五年度事業中間報告及び収支中間報告について(平成 26 年 3 月 1 日現在)
- * 平成二十六年事業計画案及び予算案について
- * 平成二十六年役員及び地区事務局について

区事務局について

* 宮城県社会教育委員連絡協議会設立五十周年記念事業について

について

* 平成二十五年度東北地区社会教育研究大会岩手大会について(報告)

* 平成二十六年度東北地区社会教育研究大会秋田大会について

発行・宮城県社会教育委員連絡協議会

会長 菅原 敏元

事務局・仙台市青葉区本町 三十一

宮城県教育庁 生涯学習課内

TEL 022(211)3653

FAX 022(211)3697

印刷 新生印刷株式会社

